

2023年のセーフコミュニティ再認証に向け 海外審査員による現地審査を実施します



ターゲット 17.17

令和4年11月1日

郡山市市民部

セーフコミュニティ課

課長 渡辺 正樹

TEL：924-2151

SDGs ターゲット 17.17 「官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する」

本市では、2018年2月に国際認証を取得し、「けが」や「事故」をデータから分析して、その原因を究明するセーフコミュニティ活動を市民の皆さんや関係機関・団体等と協働で取り組んでまいりました。このたび、2023年のセーフコミュニティ再認証に係る現地審査を下記のとおり実施します。

記

- 1 日 時 令和4年11月8日(火)～10日(木)
※ 詳細は別紙「現地審査タイムテーブル」のとおり
- 2 会 場 郡山市役所本庁舎2階 特別会議室
※ 「Zoom ウェビナー」によるオンライン審査となります。
- 3 内 容 郡山市セーフコミュニティ推進協議会の6分野の対策委員会によるプレゼンテーション及びディスカッション、
外傷サーベイランス委員会のディスカッション、
審査員講評
- 4 審査員 海外認証審査員3名(別紙「審査員プロフィール」のとおり)
- 5 資料等 市ホームページに掲載しています。
ホーム > セーフコミュニティ > 国際認証取得について > 再認証取得まで > セーフコミュニティ現地審査を実施します
<https://www.city.koriyama.lg.jp/site/safe/49777.html>



<セーフコミュニティ現地審査>

郡山市は2018年2月に国際認証を取得しましたが、5年毎に再認証のための申請が必要となります。今年度、認証時からの5年間の地域の安全の状況の変化、活動の継続性、取組の評価の状況などを海外認証審査員に審査いただき、2023年の再認証取得を目指します。

郡山市セーフコミュニティ現地審査タイムテーブル

※会場 郡山市役所本庁舎2階 特別会議室（福島県郡山市朝日一丁目23番7号）

11月	8日(火)	9日(水)	10日(木)
9:00			
10:00			
11:00	11:00~11:20 開会・市長挨拶 11:20~12:00 全体説明 (ディスカッション)		
12:00	12:00~13:30 昼食・休憩		
13:00			
14:00	13:30~14:30 外傷サーベイランス委員会	13:30~14:30 こどもの安全対策委員会	13:30~14:30 防災・環境安全対策委員会
	14:30~14:40 休憩	14:30~14:40 休憩	14:30~14:40 休憩
15:00	14:40~15:40 交通安全対策委員会	14:40~15:40 防犯対策委員会	14:40~15:40 審査員ミーティング
	15:40~15:50 休憩	15:40~15:50 休憩	15:40~16:00 休憩
16:00	15:50~16:50 高齢者の安全対策委員会	15:50~16:50 自殺予防対策委員会	16:00~17:00 審査員講評 (市長挨拶含む)

閉会 17:00

【プロフィール】

審査員

◆ ミカエル グリヴナ (Michal GRIVNA) ◆

(医師、博士、健康科学修士)

所属: アラブ首長国連邦大学 医学健康科学部

肩書: 教授



経歴

現職に就任される前から中央及び東ヨーロッパにおいて積極的に外傷予防(管理)に携わっており、1997年に出身のチェコ共和国プラハのカレル大学において子ども傷害疫学・傷害予防センターを設立した。このセンターでの活動は、チェコ政府によって全国子ども傷害予防プログラムとして全国的に導入された。

また、現在の自転車ヘルメット及びチャイルドシート装着の規制にもつながっている。また、ヨーロッパ子ども安全連盟においてリーダー的な役割を担ってきた。

学術的には、子どもの登校時の交通安全、自転車によるケガ、乳幼児の歩行器や遊び場でのケガ、受傷登録、その他 HIV/AIDS 予防、喫煙など様々な問題について公衆衛生の視点から研究をおこなっている。また、アラブ共和国及び海外の様々な公衆衛生・予防医学機関との共同でコンサルテーションも行っている。さらに、WHO 暴力・外傷予防指導プログラムにおいて若い科学者の指導も行うとともに、国際子ども・若者の障害予防学会やヨーロッパ医学教育協会、ヨーロッパ公衆衛生協会、国際疫学学会などの会員としても活動している。

セーフコミュニティについては、2014年より審査員として活動しており、郡山市の前回の審査も担当している。

◆ ジョンイ・ペ (Jeongye BAE) ◆

(博士:看護学)

所属: インジェ大学 (韓国釜山市)

肩書:

- ・ インジェ大学 教授(看護学) 看護学部長
- ・ 韓国 公衆安全省 政策アドバイザー
- ・ 韓国 釜山市消防本部 心理支援センター ディレクター
- ・ 釜山市西区 精神保健センター ディレクター 他



経歴

ソウル大学看護学部にて修士号を修得後、梨花女子大学にて博士号を修得(看護学)。

2005年には、米国ワシントン大学にて客員研究員として経験を積む。

セーフコミュニティ(あるいは安全・安心)に関する分野において、長年の経験を有しており、現在はインジェ大学看護学部長であるとともに国際セーフコミュニティ研究機構のセンター長として釜山市だけでなく、国内の多くの自治体(世宗市、亀尾市、蔚山広域市南区、大邱広域市寿城区、釜山広域市、釜山広域市沙下区など)の支援を行っている。

研究及び活動の本拠地である釜山市においては、セーフコミュニティ研究センターのディレクター(2011年～)であり、認証プロジェクトのプログラムリーダーとしてかかわっている(2009年～)。さらに、2022年10月の第25回世界セーフコミュニティ会議・第10回アジア地域セーフコミュニティ会議の副実行委員長としてコロナ禍での国際会議の開催に貢献した。セーフコミュニティ審査員としては、2014年から審査を担当しており、日本においても久留米市や松原市の事前指導やさいたま市の現地審査等を担当している。

◆マイケル ウィルソン (Michael WILSON) ◆

(博士(傷害疫学)、公衆衛生学修士)

所属: トゥールー大学 (フィンランド)

肩書:

- ・トゥールー大学 講師
- ・タンザニア デジタルライブラリー イニシアチブ設立者
及び技術リーダー
- ・ピア・コープ ネットワーク タンザニア 共同創始者
- ・外傷予防及びコミュニティ安全向上センター ディレクター



経 歴

アメリカやスウェーデンの大学で公衆衛生の教育を受けたのち、これらの国々にくわえて、南米(コロンビア)やアフリカ(タンザニア)、カナダにおいて研究者としての実績を重ねる。人類学、公衆衛生、ICT、及び傷害疫学を包括する多様なバックグラウンドを活かし、地域を基盤としたハイリスク者の傷害及び暴力の予防に力をいれており、特に、家族要因及び貧困などがどのようにケガの発生に影響を与えるかについて関心を寄せている。その一方で、実践者としても活発に活動を展開しており、タンザニアにおいて、外傷予防及びコミュニティ安全向上センターのディレクター、PeerCorps Centre for Injury Prevention and Community Safety (CIPCS) の共同設立者、タンザニア デジタルライブラリー イニシアチブの設立者及び技術的リーダーとして、積極的に地域レベルでの安全の向上に取り組んでいる。セーフコミュニティ審査については、日本においては、泉大津市(オブザーバー)及び豊島区(事前指導)を担当している。

コーディネーター

◆白石 陽子 ◆

(博士:政策科学)

肩書:

- ・一般社団法人日本セーフコミュニティ推進機構(JISC)代表理事
(セーフコミュニティ支援センター)
(インターナショナルセーフスクール認証センター)
- ・セーフコミュニティ公認認証審査員
- ・立命館大学衣笠総合研究機構 研究員
- ・韓国亜州(アジョー)大学 医学部 客員教授



経 歴

立命館大学大学院政策科学研究科博士課程在学中に「セーフコミュニティ(SC)」に出会ったことをきっかけに、セーフコミュニティの発祥地であるスウェーデンのカロリンスカ研究所(医科大学)でセーフコミュニティを学ぶ。2008年にセーフコミュニティに関する研究により博士号(政策科学)を授与され、立命館大学の研究員としてセーフコミュニティの研究を進めた後、京都大学大学院医学研究科においてセーフコミュニティの研究を進める。2011年にセーフコミュニティ支援センターとして認証され、現在はセーフコミュニティ推進機構代表理事としてセーフコミュニティ活動の支援と研究に専念している。また、同年12月には、「インターナショナルセーフスクール」の認証センターとしても認証された。現在、13の自治体のSC活動を支援するとともに、セーフスクールの推進にも力を注いでいる。